

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 28年 11月 24日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3495000048		
法人名	有限会社ヒサオカ		
事業所名	グループホーム能美いこいの里		
所在地	広島県江田島市大柿町小古江684番地3 (電話) 0823-57-0040		
自己評価作成日	平成28年10月2日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=3495000048-00&PrefCd=34&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	平成28年11月14日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

利用者様の思いを大切に、集団・個別レクリエーション活動など、その方に合ったケア・コミュニケーションを心がけています。又、利用者様が生きがい・役割を持ち楽しい時間を過ごしていただけるよう、職員ひとり一人が意識して日々の業務に取り組んでいます。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は、この10月から着任した新管理者の下で、従前の運営を踏まえながら改革が推し進められている。「利用者・職員のお互いの顔が分かる関係作り、利用者寄り添ったケア」等、認知症ケアの原点回帰を図る中で、地域密着型の活動を強化している。「やり方次第でできることは多い、楽しく仕事ができている」と、未来志向の方針は、具体的な展開を見せている。第一に、職場のレイアウトを一新し、玄関の壁一面に職員の写真・各自の目標を記載した「職員紹介一覧」を掲示した。第二に、ケアの多様な展開である。飾りつけは、利用者のレベルに応じたアクティビティ（個別的な工作）を提供し、見て楽しめる様にする。また、今までは何となく行っていた体操についても、昔の歌を歌いながら体を動かすという、二重課題(ながら動作)の実行等、具体的な根拠に基づいた活動となっている。更に、地域密着の特性を活かした外出支援として、来年のとんど祭りに参加予定である。第三に、それらを支える職員の資質の向上として、オレンジ・アドバイザーの資格を有する管理者は、実践者研修やキャラバン・メイトの資格取得に向けて市町と協議を進めている。
--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	施設理念とは別に、職員全員で作成した三ヶ条を朝、夕の申し送り時に唱和し意味と意義を共有、実践に繋げられるよう努力している。	施設理念に沿って、職員全員で作った職員理念をケア指針としている。食事の準備や玄関の生け花等で利用者に助けももらう事もあり、利用者・職員で共有できる思いも込めている。更に職員個人の年間目標を設定し、半期毎の個人面談で、理念の達成度を振り返り、実践に繋げている。また、新たな体制に即した理念の作成も検討している。	開設から5年を迎え、新たな体制に即した理念の周知や実践につき、より深く取り組むことで更なる向上を期待したい。例えば、理念の下に分り易い具体的な年間行動目標・計画（事業所・職員個人）を設定し、定期的に達成度を検証する案など、理念の深化・定着に努めることで、理念を共有し、更なる実践に繋げることを期待したい。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	近隣の方とは事業所の畑を通じて意見交換や交流を図っている。その他、地域の催し物への参加や、ボランティアの方との交流も定期的に行うようにしている。	日頃から散歩・買い物をする中で、地域住民と挨拶を交わしたり、花を頂く等、地域との交流をしている。また、とんど祭り等の地域行事に参加する一方、運営推進会議の参加者のお孫さんによる歌・踊りや、敬老会では職員の子どもが入っている合唱団のボランティアの参加もあり、地域との相互交流や世代間交流も盛んである。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	オレンジアドバイザー修得に伴い、江田島市高齢福祉課との連携を図る為の話し合いを行い、自施設での利用者家族や地域住民の方への認知症についての講座の実施や、地域の相談窓口となり市の福祉課との情報の共有・発信・協力体制をとり早期発見・対応に努められるよう今年度より調整中である。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	利用者様の状態、利用状況、行事等の報告を行っている。また、現在取り組んでいるサービスの内容や困難事例等を説明し、参加メンバーから頂いた意見を参考に実践、報告を行っている。	運営推進会議には利用者・家族、地域住民代表として、行政職員・地域包括支援センター長・市議員・小学校長が参加し、市公民館を借りて、系列事業所と合同で、定期的に開催されている。会議では事業所の現況・行事報告・意見交換等が為されており、その際、食中毒防止の為、調理レク等での消毒の徹底を助言された経緯がある。	会議は定期的に開催されているが、事業所から離れた場所での開催であったり、事業所「固有」の家族や地域住民代表の参加も少なく、現場での「利用者やサービスの実績、評価への取組み状況」も分かり難い現状がある。今後は地域住民の協力を得て「固有」のメンバーが参加できる案など、各事業所内で開催が出来る様、期待したい。
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	介護保険制度の内容や、事業所が抱えている問題等の相談以外でも、市が推奨する取り組みや、職員のスキルアップ研修等に参加し関係を築いている。	運営推進会議には、市担当課職員、地域包括支援センター長も参加し、情報の共有化が図られている。また、管理者異動や実践者研修に伴う手続きの相談等、運営に関する相談・助言により、協力関係を築いている。更に、市が推奨する「100歳体操」への取り組みや行政主催の虐待等の外部研修にも参加して、連携強化に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>玄関の施錠については日中のみ開放。転倒・転落の危険がある階段にのみ常時施錠を行っている。職員に対する身体拘束禁止の周知としては、全体ミーティング等で内部研修を行い理解した上で利用者様のケアを行うようにしている。</p>	<p>内部研修を通して、職員は「身体拘束をしない」必要性を認識し、ベッドから転落の危険のある利用者には、ポータブルトイレの蓋に鈴をつける等の工夫をしている。階段は施錠をし、玄関は日中は施錠せず、出る時は上のボタンを押す形としている。また、言葉による行動制限も控え、利用者の行動に最後まで寄り添う対応にしている。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>全体ミーティングではマニュアルに沿った虐待防止の内部研修を行っている。職員ひとり一人が意識してケアを行い、職員同士が相互に注意し合える関係を築いている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>管理者や計画作成担当者が社会福祉協議会の担当者と連携し、対応するようにしている。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約時には、契約書と重要事項説明書の説明を行い、利用者様・家族の不安や疑問に対しても納得して頂けるように説明している。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>利用者の要望には、訴えがあった時にその都度対応している。御家族様からは面会時や電話連絡により要望を頂いている。運営推進会議を通じ外部へ発表すると共に要望に添えるように努めている。</p>	<p>利用者の要望は、日々の職員との会話を通して把握し、家族とは電話連絡や面会時、ケアプラン更新時や運営推進会議等で、利用者毎の担当職員や管理者から聴くように努め、「連絡ノート」により共有している。家族の要望で、栄養管理が必要な利用者だが、医療関係者と協議して食を楽しんでもらい、内服管理で対応した経緯がある。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	代表者や管理者は職員の提案や意見に耳を傾けよう努め、ミーティングでも意見を聞くようにしている。提案等は職員全員で話し合い、できる限り反映するようにしている。	毎月の全体ミーティングや随時の個別面談・毎日の申し送りや半期毎の個別面談を通して、意見を聞く機会を設け、介護方法・業務上の提案や個人目標の進捗状況などに対する支援体制をとり、職場環境の調整を図っている。職員の提案により、玄関の壁一面に職員の写真・各自の目標を記載した「職員紹介一覧」を掲示した例もある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員は仕事の役割を持っている。また、担当する利用者様のケアプラン原案作成などに関わり、意見や提案が反映されることで意欲的に仕事に取り組むことができている。代表者は自己評価と実績を考慮し、給与等で反映するようにしている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	代表者と管理者は職員ひとり一人の経験や力量、向上心を把握しその職員に合った外部研修に参加できるように努めている。全体ミーティングでは様々な福祉・医療の勉強会を行い、職員のスキルアップに繋げている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	他施設や医療機関のスタッフと交流し、意見交換や情報交換を行い、サービスの質の向上に繋がるように努力している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	事前面接にて、御本人や御家族に聞き取り調査を行い不安なことや困っていることなど、要望を把握した上でサービス計画を作成している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。</p>	<p>事前面接時と契約時に御家族の要望を聞き取り、不安を取り除くように努めている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>利用者様の現在の状態を把握した上で、要望や必要なサービスがどこまで行えているかを説明している。場合によっては他のサービスや医療機関の利用が必要になることも説明し、理解して頂いている。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。</p>	<p>利用者様に対しては人生の先輩として敬意を表した上で、馴染みの関係になれるように接し家族のような雰囲気の中で過ごして頂けるように、職員ひとり一人が意識して関わりを持つようになっている。</p>		
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>御家族参加型の行事を開催するなど、いつでも施設に足を運んで頂けるような雰囲気作りを行っている。御家族と職員が一緒となって、利用者様を支えて行けるように協力をお願いしている。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>馴染みの商店や美容院、医療機関を望まれた場合には希望に添えるように対応している。施設を開放しご家族だけでなく、友人等にも足を運んで頂いている。</p>	<p>「地域との絆」を大事にし、散歩・買い物等を通して、馴染みの場所で馴染みの顔や声と何気ない日常を楽しめる様に支援している。毛染め希望の利用者に対して、馴染みの美容院に行ったり、馴染みの日用雑貨店で買い物をしたり、お寺への墓参り、また、お花の先生だった利用者へ弟子の訪問や近所の人からミカンの差し入れの例もある。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者同士が関わりを持てるようにレクリエーション活動等を行っている。施設内での馴染みの関係性もでき、利用者様同士が支え合い協力している場面が多々見受けられる。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	在宅に戻られた場合でも担当のケアマネと連携をとり、必要に応じて情報提供する等の協力をしている。退所が決まった場合でも希望された場合には、別の施設や医療機関と一緒に探す協力をしている。		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の関わりの中から、思いやニーズを把握し支援を行っている。意思を伝えることが困難な利用者様であっても御家族からの情報や日々の状況を考慮し、安心して過ごして頂けるよう支援を行っている。	職員は利用者の気持ちを大事にしながら、ゆっくり話す時間を作り、その方の行動を理解するよう努めている。それ等の情報は「連絡ノート」に残し、職員間で共有している。例えば、脊椎圧迫骨折後の臥床が辛い利用者や家族の思いに対し、家族と職員で生活リハビリを行い、日中はシルバーカーでトイレに行ける様になった例がある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	事前面接では御本人、御家族から、これまでの生活歴や生活環境等を伺い、担当ケアマネや医療機関のスタッフ等からも、在宅時のサービス利用状況や診療状況等の情報収集を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日中・夜間の状態を記録し、職員全員で共有し把握に努めている。必要時には再アセスメントを行い、常に状態の変化とニーズに対応できるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>御本人の意見は勿論、御家族の希望や意見の他、医療機関の関係者から得た情報を分析し、計画作成担当者と担当職員で話し合いを行い、サービス計画作成及び評価、見直しを行っている。</p>	<p>利用者毎に職員の担当制が敷かれ、毎月のモニタリングで、「個人日誌」等から得た生活状況・医療情報を計画担当者と共に集約している。それはケース検討会を経て、会議録の「利用者情報」に記録され、全体に周知される。短期目標は半年毎、又は状態特変時に計画の見直しを行い、利用者が達成感を実感できる介護計画としている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>毎日24時間タイムスケジュール形式で経過記録を残している。特変者は日勤日誌や夜勤日誌にも転記し、職員全員で情報の共有と状態の把握に努め、サービス計画作成時やモニタリングを行う際に活用している。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>一人ひとり状況の変化に応じて、柔軟な対応ができるように努めている。その際は御本人、御家族に相談し、ニーズや意見を伺うようにしている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>医療機関・ボランティア・馴染みの商店など、その方が生活していく上で全て生活資源と捉え、継続して関わることができるように支援している。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>利用者の大半は隣接した協力医を主治医とされているが、希望により馴染みの医療機関を継続されている方もおられる。主治医からの専門医受診の勧めには御家族と協力体制をとり通院介助を行っている。医療機関には必要に応じ情報提供を行うなど適切な医療が受けられるように日頃より連携を図っている。</p>	<p>入居前の主治医の受診継続も可能だが、殆どの利用者は隣接の協力医を主治医としている。協力医からは2週間に一度の往診や随時の受診も可能であり、看護師の配置と相俟って、適切な医療が受けられる体制となっている。また、随時の訪問歯科もある。看護サマリーで他医療機関と連携し、「個人日誌」で職員間の共有を図っている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	<p>体調の変化や疾病の悪化が見られた時には看護職員に報告。必要であれば受診の手続きを取っている。看護職員不在時でも電話連絡により、状態の報告・相談及び指示を受けることができる体制を整えている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>			
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	<p>医療機関同様の対応は難しいことを契約時に説明している。その上で看取りを希望された場合には、主治医と相談の上出来る限りの対応を行っている。その際は主治医から御家族に現在の状態と今後予測される変化、医療が行える限界などの説明をして頂いている。</p>	<p>利用開始時に、事業所として医療施設同様の対応は難しいことを説明し、了解を得ている。しかし、看取りの希望時には、家族・医師と話し合いを行い、できる範囲で適切な支援を行う考えである。なお、「できる範囲」の具体的な根拠づけを明確にするため、来年度は看護師による看取りの外部研修受講を計画している。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	<p>急変時や事故発生時に対処する為のマニュアルを作成し、職員全員に周知し、全体ミーティングでも看護職員を中心に応急処置法や対処法の勉強会を行っている。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	<p>消防計画に基づき、年2回避難訓練を行っている。また、協力医療機関や近隣の方にも災害発生時の連絡網を配布し協力体制を築いている。</p>	<p>年2回、利用者参加、夜間想定避難訓練を行っている。出火場所や利用者の動きも考えた実践的な内容となっており、自動通報により、最寄りの職員に連絡が繋がる体制となっている。また、地域との協力体制についても、災害時の避難場所である隣接の協力病院への避難経路や、数軒の近隣住民に「連絡網」を配布している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	利用者様一人ひとりを尊重し、受容、共感、傾聴の姿勢を大切にしている。人生の先輩として敬意を表し、プライドやプライバシーを損ねない声掛けと対応に心がけている。声掛けや対応の仕方については、職員同士が互いにアドバイスを行いミーティングでも定期的に振り返りと反省を行っている。	新人研修での接遇研修や外部研修で、職員の幅広い知識の習得とスキルアップを図る体制もあり、職員も「ケアと世話」の区別が付き、尊厳に配慮出来るようになった。「利用者に対する言葉かけは常に敬語で」といった画一的な対応はせず、寛いだ雰囲気での会話を楽しむため、利用者・家族の要望があれば下の名前で呼ぶ事もある。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	御本人の意見は勿論、意思表示がうまく表せない利用者様であっても、分かりやすい選択肢を用意するなどし、できるだけ自己決定して頂けるような支援を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	利用者様一人ひとりの性格や生活習慣を尊重し、できるだけ御本人のペースに合わせた支援と個別対応を心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	その日着る衣服を選んで頂く事や好みの髪型の選択、女性では化粧をされたり、毛染めやパーマを希望された方には、美容院に行けるように支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	普段は簡単な下ごしらえや片付け等利用者個々の能力に応じた事を手伝って頂いている。事業所の畑で一緒に収穫した野菜を食材に利用し収穫の喜び・季節を感じていただけるよう努めている。また、調理レクとしてたこ焼きパーティーやかき氷パーティー等開催し普段の食事とは違った雰囲気づくりをし楽しんでいただけるよう努めている。	食事は外部業者から食材とレシピが届き、それに職員が少し手を加え調理している。事業所の畑で収穫した野菜を食材に利用することもある。利用者は、食事の下準備等、役割に応じた手伝いを行っている。また、調理レクとして、たこ焼きやかき氷パーティーを楽しみ、能美や音戸の温泉施設等への外出行事で味わう食事も好評である。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>外注している食材でカロリー計算されているが、塩分や糖分、脂質には気を付けながらも味が損なわれないように心がけている。ひとり一人の状態に合わせ、普通食・粥・キザミ食など工夫を行い、摂取量は毎食管理している。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>毎食後に口腔ケアを行い、自力で難しい方には介助を行っている。口腔内の疾患がある方には、歯科往診にて治療をして頂いている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>排泄表に記入し状況把握を行っている。訴えない方でも、声掛け・トイレ誘導を行い、気持ち良く過ごして頂けるように支援している。介助の際でもできるだけ残存機能を活かして頂き、難しい部分は行うようにしている。</p>	<p>排泄記録表等により、各人の排泄パターンを把握し、トイレ誘導をしている。トイレから遠い居室には専用トイレを設け、ポータブルトイレは夜間のみ使用する等、柔軟に対応している。利用者が出来ることは本人に行なってもらい、また紙パンツに比べ、経済的・機能的な改良型布パンツの導入等、自立に向けた支援も行っている。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>チェック表にて管理し、排便状況の把握を行っている。できるだけ自然排便を促す為、適度な運動とバランスの良い食事・水分量の確保を支援している。排便がみられない場合は看護職員に報告し医師にて下剤調整等行っている。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>基本的には週2回実施。基本的には利用者様の希望にて1階は午後浴、2階は午前浴を行っている。利用者様の体調・希望に応じて好みの時間の入浴対応も実施している。又、その方の好みに応じた湯温調整を実施し、冬至にはゆず湯を楽しんで頂き季節も感じ頂けるよう工夫している。</p>	<p>週2回、1階は午後浴、2階は午前浴を基本とし、利用者様の体調や入浴習慣に合わせて、好みの入浴温度や時間等、柔軟に対応している。常勤看護師と協力医で入浴の迅速な処方ができる強みもある。脱衣室には個人別の棚に各自の入浴用品を置ける様になっている。シャワー浴や足浴を行ったり、冬至のゆず湯で寛いでもらうこともある。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	利用者様それぞれで休まれる時間が異なっており、訴えに合わせた就寝介助を行っている。夜間はトイレ誘導やパット交換、希望時の水分補給などを行い巡回と様子観察にて、安心して気持ち良く休んで頂けるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	処方されている薬の容量や用法、効能が把握できるように一覧している。症状の変化については、経過観察に残し看護職員を通じて医師に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	利用者様には、それぞれホーム生活での役割を持って頂き、意欲の向上に繋がるように支援している。個別で行うレクリエーションや趣味などの活動が楽しく続けて行けるように支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	天気の良い日には、職員が付き添い散歩に出かけることが多い。花や海を見て喜ばれる利用者様も多く気分転換となっている。その他、ドライブや買物支援で外出をされることもあり、御家族の協力もあり外食や外泊をされることもある。	事業所は海辺に近く、散歩に適した立地でもあり、利用者の歩ける距離を考え、殆どの利用者に声かけをし、外へ出ると近所の方と挨拶を交わしたり、畑の収穫を楽しんだり、また、日用雑貨店へ買物に出掛けたり、気分転換となっている。家族との外出の他、季節行事として、海辺の土手でお花見、近隣の温泉施設での外食も好評である。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	トラブル防止の為、金銭管理は原則御家族にお願いしている。買物や通院での支払いは施設が立て替えている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>電話は施設のものを使用して頂いている。利用者様の中には携帯電話を使用されている方もおられる。届いた手紙は御本人に渡している。</p>		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>フロアは温度・湿度計を見ながら利用者様が過ごしやすい室温・湿度調整をし、健康管理に努めている。壁面には季節を感じて頂ける装飾や、行事での写真などを飾り室内でも季節を感じて頂ける工夫をし楽しい雰囲気作りに努めている。</p>	<p>共用空間は、時には利用者の手伝いを交え、毎日掃除が行われ、利用者が季節の花も活けて、清潔な居心地良い場所になっている。フロアでは季節行事毎に写真等を飾り、会話の潤滑油ともなっている。また、加湿空気清浄機も導入し、利用者の健康管理に努めている。更に菜園での園芸活動など、周辺も「楽しみの空間」となっている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>フロアの一角にソファを設置しており、テレビ鑑賞される方や談話され楽しめる方など、くつろぎ休息されそれぞれが過ごされている。利用者様は居室とフロアを自由に行き来され、仲の良い利用者同士が教室を訪れ過ごされることもある。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>御家族には、使い慣れたものや思い出のあるものを持ち込んで頂くようお願いしている。できるだけ住み慣れた場所に近い空間をつくり、安心して過ごして頂けるように支援している。</p>	<p>居室には、ベッド・エアコン・収納棚を設置し、トイレから遠い居室には専用トイレが設えてある。居室には、テレビ・携帯電話等、使い慣れた物、また仏壇や本人手作りの竹細工等、好みの物を持ち込み、居心地よく過ごせる様にしている。夜間排泄時、転倒の危険のある利用者には、ポータブルトイレの蓋に鈴をつける工夫をしている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>廊下やトイレ、浴室には手すりを設置してあり、利用者様が生活しやすい環境にしている。自立を促す為、過剰な介護は控えていることが今後も継続して行けるように見守りや声掛けによる支援を行っている。</p>		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム能美いこいの里

作成日 平成29年1月4日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	3	運営推進会議が施設と離れた場所で開催されている。	施設内での運営推進会議の開催。	代表者との話し合いを設け、理解を得る。	12ヶ月
2	3	地域の方や利用者家族の交流が薄く、サービスの実際が伝わり難い。	地域の方や家族の方との交流の場を設け、サービスの実際を知って頂く。	地域行事への参加を積極的に行う。又、半年に一度家族参加して頂ける行事を実施。	12ヶ月
3	1	職員のモチベーションは高いが、個人個人の具体的な目標達成が不明瞭。	職員個人の評価を具体化し、職場の活性化を図る。	職員の個人目標を具体的にあげてもらい、定期的に目標達成を検証する。	12ヶ月
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。